

**創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
事後評価報告書**

事業名（年度）	創薬基盤推進研究事業 （令和3年度～令和5年度）
研究開発課題名	デュアル修飾型アンチセンス核酸を用いた癌種横断的な新規治療薬の研究開発
代表機関名	国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学
研究開発代表者名	神田 光郎

総合評価：良い

【評価コメント】

本研究は、胃がんをはじめ各種固形癌で高発現する予後不良因子を標的ターゲット分子として注目し、計画していた研究を概ね遂行した。検討当初のアンチセンス核酸配列候補に致死毒性が見られたが、局面を開き、新たに配列候補を選定して複数の固形癌での非臨床 POC を取得したことは評価できる。さらに、ノックアウトマウスでの解析により、新規治療薬開発に資する標的であることを明確化するとともに、治療奏効度を予測するコンパニオン診断法開発にもつなげ、新たな抗がん剤創薬の進展が期待できる。

ただし、in vitro の活性が必ずしも in vivo 薬効と相関しない点への考察、安全域や投与可能用量での効力の明確化等、今後明らかにすべき課題が残されている。これらの点を解決し、さらに、標的分子のターゲットバリデーションについての研究を発展させ、新規抗がん剤の技術基盤として完成させることを望む。

以上